

キャスト

小夜子（さよこ）

ハナコ

録音（人間が生声でやっても良い）

*ホリゾント幕が上がっている。平台や箱馬が丸見え。

小夜子、大道具を作っている。

遠くから部活動の声。

通りかかるハナコ。下校途中。通り過ぎる。

小夜子 ちよいちよーい。

ハナコ え。

小夜子 ここはなんか突っ込もうよ。

ハナコ いや、

小夜子 すっげえ面白いのを一発お願いします。

ハナコ いや急にそんなこと言われても、

小夜子 はいどうぞ！

ハナコ いやだから、

小夜子 はいどうぞ！

ハナコ いや、

小夜子 はいどうぞ！

ハナコ ええと・・・ジブリファンに謝れ。

*死のような沈黙。

ややあって小夜子、大道具を作り始める。

ハナコ おい！ スルーすんなよ！

小夜子 えつと、これが一八〇cmだからええと、

ハナコ ああそう！

*ハナコ、帰ろうとする。

小夜子 ちよいちよいちよーい。

ハナコ なによ。

小夜子 相変わらず気が短い。

ハナコ だから何よ。

小夜子 久しぶりだよね。

ハナコ うん。

小夜子 元気してた？

ハナコ うん。

小夜子 もう帰るの。

ハナコ うん。

小夜子 帰って何するの。

ハナコ 何って、

小夜子 だって時間余るでしょ。こんな早くから帰って何するの。

ハナコ 何やってんの。

ハナコ 何って、いろいろだよ。

小夜子 勉強？ まさか。

ハナコ なにそれどういう意味よ。

小夜子 してるの？
ハナコ してないけど。
小夜子 やっぱりね。
ハナコ なんだよ。
小夜子 どうせつまんねーゲームでもやってんだろ。
ハナコ あたし帰る。
小夜子 ちよいちよいちよいちよーい。
ハナコ うるさい。
小夜子 あたしもおんなじだから。
ハナコ え。
小夜子 あたしもおんなじことするだろうって思うから。
ハナコ ・・・。
小夜子 ね、時間あるなら、ちよっと手伝ってくんない。
ハナコ え。
小夜子 あんた、ノコギリ、得意だったじゃない。
ハナコ え。
小夜子 なんかうまくいかないんだよなー。まっすぐ切れなくて。
ハナコ ねえ、頼むよ。
小夜子 ・・・少しだけなら。
ハナコ ありがと。ここ切って。ここ。
*ハナコ、荷物を置いて、
ハナコ どこ。ここ？ ここ切ればいいんだね。

*ハナコ、切る。
小夜子 さすがー！ 上手ー！ 切り口からして美しい！ ノコギリ職人！
ハナコ あと、何よ。
小夜子 あ、じゃあこれもいい？
ハナコ 貸しな。
小夜子 (小声で)ちよろいな。

*ハナコ、切りながら、
ハナコ 何やるの、今度は。
小夜子 え。
ハナコ 防犯シアターだろ、これ。
小夜子 うん。その大道具。
ハナコ 何やるの、今年は。
小夜子 興味ある？
ハナコ ない。
小夜子 あるでしょ。
ハナコ ない。
小夜子 ほんとはあんた、劇好きだから、
ハナコ これ細切れにしてやろうか。
小夜子 わ、わー。
ハナコ どんな話。
小夜子 ええとね、ある男の子がいじめられてるわけ。それですっごく

つらくて、いつそ死んじゃおうって思っ
て、校舎の屋上に行くわけ。そこで別の男子に出会って、彼らは協力していじめに立ち向かおうとするわけ。そんでこれ。

*台本を手渡す。

ハナコ なに。
小夜子 これ、読んで。
ハナコ なんてあたしが、
小夜子 あんたうまいじゃん、朗読。もう才能。天才。なんか嫉妬しちゃうなー。ねえ、お願いー。
ハナコ ・・・ちよっとだけなら。

*照明変化。

音楽。

ハナコ ほら、たくさん家やビルやらあるだろ。
こっからだとちっちゃなオモチャみたいに見える。あの中にはたくさん人間がつまってるんだ。ちっちゃなオモチャみたいな人間が。ご飯作って、洗濯して、掃除して、働いて。
あの中にオレの親父がつとめていた会社があった。
建設系の会社でさ、親父はその係長だった。
ある時、会社は新しく道路を造る仕事を請け負った。何十億つてお金が動く、でっかい仕事だ。うまくいけば会社は大もうけ

できる。社員もたくさん給料がもらえる。
でも、その道路は自然保護区のすぐそばを通ることになってた。それでどうやってもその道路は環境破壊になってしまふことがわかったんだ。なんとかかっていう絶滅危惧種の鳥がそのへんに生息してたらしい。
親父はそれを上に報告した。
そしてもちろん、握りつぶされた。
そりやそうだ。何たって何十億だからな。
会社の中で、親父に味方するヤツは一人もいなかった。
でも親父はバカだった。
そのレポートを新聞社に持ち込んだ。自然保護団体に持ち込んだ。
ネットにアップした。
大騒ぎになった。
道路の計画は中止になった。
何とかって鳥は助かった。
そして親父は会社をクビになった。
親父はバカだと思う。大馬鹿だと思う。
学校の中でこんだけイジメが起きてるんだぜ。
そんでみんなその学校を出てるんだ。
だから会社にイジメがあるのは当たり前だ。
だからこの世界にイジメがあるのは当たり前だ。
だから、オレはときどき、この全部を踏みつぶしたくなるんだ。

*音楽終わり。

小夜子 で、いま校舎の屋上の柵を作ってるわけよ。
ハナコ ふうん。

小夜子 あ、そっち持って。

ハナコ うん。

小夜子 ええと、九cm間隔なんだから、九cm(角材に鉛筆で印をつける)、
にく一八cm、さんく二七cm、ええと、しく三六cm、ええと、ご
く、ごく、ごく、ごく、ごく、

ハナコ おいおい。

小夜子 ごく、ごく、ごっく七二、

ハナコ なんてだよ。

小夜子 ごっく六三?

ハナコ 四五cm! ごっく四五だろ!

小夜子 算数苦手なのだよ。

ハナコ 苦手なんてレベルじゃねえよ。

小夜子 四五cmと。ろっく、ろっく、ろっく、

ハナコ 五四! あんたどうやって高校入った!

小夜子 そうそう五四cm。あたしら、いいコンビよね?

ハナコ どこが!

小夜子 えと、ここに角材をネジ止めするわけなんだけど、ええと、ド

ライバーはどこかな、

ハナコ ちよつと。

小夜子 えなに。

ハナコ なんてあんたが大道具作ってるのよ。

小夜子 なんてって、

ハナコ 一番作らせちゃいけない奴だろ、あんたは。

小夜子 あ、あのね、

ハナコ 他にいないの、誰かまともな奴は。

小夜子 いやだからその言い方が、

ハナコ 高校生にもなって九九もできない奴をまともとは言わない。

1年はどうしたの。新入部員は。

小夜子 あいつらは、まあ、いいじゃない。

ハナコ はあ? 何言ってるのよ。

小夜子 やっぱほら、一年生には、その、こういう大切な装置は、まだ

ちよつと早いっていうかなんていうか。

ハナコ じゃ2年生は。2年生なら、あんたよりマシなヤツいるだろ。

小夜子 亜紀ちゃんとか由美とかよーちんとか。

ハナコ 亜紀ちゃんは、その、今日は、都合が悪くてさ。

ハナコ 都合?

小夜子 その、えと、た、旅に出てるの。

ハナコ 旅?

小夜子 うん、自分探しの旅。自分ってなんだろう、今までの自分を捨て

てて、新しい自分になろう、ほんとの自分を目指そう。亜紀ち

ゃん、そういう心の旅に出てて。

ハナコ じゃ由美は。由美はどうしたの。

小夜子 由美は修行してる。

ハナコ 修行?

小夜子 ほら、あいつ、昔から空手の道場に通ってるじゃない。あれで

あいつ、有段者なんだよ。まえに電車の中でチカンしてきたお

ハナコ つさんのあばら骨を粉碎したじゃん。
そんなことあった？

小夜子 でもほら、こないだテレビで「もののけ姫」やってたじゃない。
ジブリの。あれ見てあいつ、今度はタタリガミを退治するんだ
って、でも今の自分の力じゃ無理だから修行してくるって、そ
んで先週から山にこもって修行してる。

ハナコ じゃよーちゃんは。

小夜子 よーちゃんは、ええとよーちゃんは、
ハナコ この前電話したら家にいたけど。

小夜子 いたでしょよーちゃん。いるんだよよーちゃん。よーちゃんは家にい
るんだよ。

ハナコ じゃなんで学校に来ないんだよ。

小夜子 それは、その、よーちゃんは、よーちゃんは今、脱皮してる
ところ
で。

ハナコ 脱皮！

小夜子 アイツの家族はみんなそうらしいよ。しらなかった？ みんな
年に一回は脱皮するんだよ。そんなでちよつとずつ大きくなるん
だ。でも脱皮したあとは皮膚がまだ新しいから太陽光線に弱く
て、だからしばらくは家の中にいなくちゃいけないらしいんだ
ね。昨日行ってみただけどさ、昼間っからカーテン締め切っ
て家の中真っ暗でさ。もう参ったよ。・・・聞いている？

ハナコ 聞いている。

*ちよつと間。

小夜子 あのさ。

ハナコ なに。

小夜子 戻ってきてくれない？

ハナコ 無理。

小夜子 そこをなんとか。

ハナコ 無理。

小夜子 どうせ暇なんですよ。

ハナコ 無理。

小夜子 演劇好きですよ。

ハナコ しつこい。

小夜子 いやだからさ、

ハナコ 帰るぞ。

小夜子 はいはい。もう言わない。

*遠くから運動部の練習の声が聞こえてくる。

作業をハナコに任せて、小夜子、ノートに書き始める。

ハナコ、気がついて、

ハナコ なにやってんだよ。

小夜子 あ、次の話をね。

ハナコ 次のって？

小夜子 演劇祭。

ハナコ もう考えてるの？

小夜子 うん。

ハナコ こんな状況で？

小夜子 こんな状況って？

ハナコ あんたが勉強苦手な理由がわかった気がする。

小夜子 あ、聞いてくれる？

ハナコ いや特に聞きたくは、

小夜子 そうか、ありがとう、

ハナコ いや別に、

小夜子 むかし、ばあちゃんから聞いた話があつて、それ元にして考えてるんだ。最初はね、ばあちゃんが子供の頃、まだあたしらしくらいの頃の話で、

ハナコ いやだから、

小夜子 物語は今から七三年前。福井大震災から始まります。

*地震の轟音。

照明変化。

ハナコ、床に投げ出される。

小夜子

一九四八年六月二八日午後四時一三分。福井県福井市の北北東約一〇kmを震源として地震が発生した。地震の規模はマグニチュード七・一。

この地震は、三年前の福井空襲からようやく復興の途上にあつた福井市を直撃し甚大な被害をもたらした。死者三七六九人、負傷者は二万二〇〇〇人以上。

*照明変化。

録音で声を流す。

録音

まつきつつあんとこは駄目や。ばあさんがおったはずやが大屋根が落ちてもたさけ。

録音

きんさくさんとこもあかん。土蔵から何からぺっちゃんこや。

録音

このへんどこもかしこもおんなじや。うちもいつまた崩れるかわからん。

録音

またや。

録音

また一からやり直しや。

録音

世の中は、どうなってるんや。

小夜子

ばあちゃんの名前はハナコといました。

*音楽。

小夜子

父さんはつぶれた家の中から蚊帳を引っ張り出してきました。細かい網でできた、四角いテントみたいな奴。昔はこれを部屋の中につつて、蚊に刺されるのを防いだんです。神社の木の枝に引っかけてつりました。父さんとハナコはその蚊帳の中で寝ました。

*ハナコ横になる。

星が出る。

ハナコ

父ちゃん。わたし、あんま落ち込んでないよ。

楽しいやん。

なんか楽しいやん。

星がよお見えるやん。
あたし、学校やめる。
学校やめて働く。
だいたい学校は嫌いやったし。

*音楽終わり。

ハナコ、前を向いて、

ハナコ 英語なんてどうせ一生使わないし、数学なんかんで勉強しないといけないのかさっぱりわからんし、だいたい三角関数とか微分とか積分とか、あれいつたいなんですか。

小夜子 そんな台詞は、

ハナコ 会場の大人のみなさん、学校を卒業してから、二次関数方程式とか下二段活用とか、アレ、一度でも使いました？使った人は正直に手を上げてください。そこで、どう使ったのか、どのくらい役に立ったのか、この場ではつきり具体的に説明してください。はい、どうぞ。

小夜子 いやだからそんな台詞は、

ハナコ 学校の勉強なんて要するに先生方が失業しないためにあるんじゃないですか。擬人法とか体言止めとかいい国作ろう鎌倉幕府とか、覚えて何になるんですか。うちの学校は農業高校だけど、卒業して農業関係の仕事に就く人なんか一割もいません。なのになんで農業の勉強しなくちゃいけないんでしょう。なのになんで実習なんかあるんでしょう。なのになんで田植えだの稲刈りだのしなくちゃいけないんでしょう。なのになんで、

小夜子 あのだからあたしはそんな台詞は、
ハナコ でも英語の先生も数学の先生も農業の先生もそんなことはちゃんとわかってるんです。でもそれゆっちゃったら自分たちの仕事になくなるっちゃって失業しちゃって家のローンとか子供の教育費とか晩酌のビール代とか払えなくなっちゃって困るから

小夜子 「みんなー、黙っておこうぜー？」みたいに示し合わせて、
わー！もうやめてよお願いだからちゃんと台本通りにしゃべつてよ！

*ハナコ、瞬時に切り替えて、

ハナコ あたし働きたいんだ。

小夜子 そんなお金稼ぐ。お金稼いで家を建てる。もっとずっと大きい家。そしたら、父ちゃん、一緒に暮らそう。
お金があったら何でもできる！

*照明変化。

小夜子 ばあちゃんは本当に学校をやめました。そして働き始めました。
縫製工場でミシンを踏みました。毎日毎日ミシンを踏みました。
ハナコ 가가가가가가가가가가가가가가

*パントマイムで。

小夜子 あんまりお金は稼げませんでした。でも、ばあちゃんはあきら

めずにミシンを踏みました。
ハナコ　がががががががががががが。
小夜子　それでもあんまりお金は稼げませんでした。でも、ばあちゃん
はあきらめずにミシンを踏みました。
ハナコ　がががががががががががが。
小夜子　そしたら隣の国で戦争が始まりました。

*音響で戦争の音。機関銃の音が「ががががが」と聞こえてくる。

小夜子　ばあちゃんの工場に注文が殺到しました。日本中の工場に注文
が殺到しました。日本中の景気がよくなりました。

*機関銃の「ががががが」とミシンの「ががががが」が重なる。

ハナコ　ががががががががががががががが！
小夜子　ハナコはお金を稼ぎました。
ハナコ　ががががががががががががががが！
小夜子　稼いで稼いで稼ぎまくりました。
ハナコ　ががががががががががががががが！
小夜子　そしてとうとうかなりの貯金ができました。
ハナコ　おっしやあー！
小夜子　これだけあれば家の頭金くらいにはなる。ハナコは急いで家に
帰りました。
でも、間に合いませんでした。
ハナコの家は火事で燃え尽きていました。お酒飲んで寝たばこ

した父親も焼け死んでいました。

*録音で村人の声。

録音　ハナちゃんのせいやない。
録音　ほや。ハナちゃんが悪いんやないで。
録音　あんなに飲むからや。
録音　ハナちゃんを送ってきた金、全部飲んでしもてたからの。
録音　あれは壊れてたんや。
録音　人間は壊れてまうことがあるんや。
録音　ハナちゃんのせいやない。
録音　ほや。ハナちゃんが悪いんやないで。
ハナコ　お金があつたら何でもできる！

*照明変化。

小夜子　ハナコばあちゃんの父ちゃんは、職業軍人でした。
たいていは徴兵されていやいや兵隊になるんだけど、職業軍人
は最初から軍人になることを目指してた人です。だから戦争中
はいばつてたようです。そんでみんなも軍人さんを大切にした。
お国を守ってくれる大切な人たちだっと思ってた。でも日本は
戦争に負けました。負けたのは誰のせいだ？ 負けてこんなひ
どい目に遭ってるのは誰のせいだ？ 誰がこんな戦争を始めた
んだ？ みんな、誰かを責めずにはいられなかったのです。
ハナコばあちゃんとうちゃんは仕事ができなくなつた。誰も

とうちゃんを雇ってくれなかった。とうちゃんの居場所はどこにもなかった。

*照明変化。

小夜子 ハナコばあちゃんはそれから一度もふるさとの村には帰りませんでした。縫製工場もやめました。そして誰も知り合いのいな海辺の街にいきました。それから結婚しました。

*小夜子、おっさんのお面をつける。

小夜子 どうぞよろしく。夫です。

ハナコ あのねえ。

小夜子 仕事は漁師です。特技は魚を三枚に下ろせることです。健康には自信があります。頑張っていきまっしよい！

ハナコ なにをがんばるのよ。

小夜子 よし子供を作ろう。

ハナコ はいー？

小夜子 すぐ作ろう。今作ろう。たくさん作ろう。

ハナコ あ、あのね、

小夜子 福井農林高校演劇部、ついに高校演劇のタブーを破る！ 見よ、めくるめく生命の神秘！

ハナコ ちよ、ちよっと、

小夜子 大丈夫、照明落として真っ暗にしたらお客さんからは見えない

から、

ハナコ こ、こらー！

*音響で赤ん坊の声。

小夜子 ちっ。

ハナコ 何考えてるんだ、おい。

小夜子 せっかくのチャンスを。

ハナコ だから何を考えてるんだ。

*小夜子、お面を外して、

小夜子

ハナコばあちゃんには幸せな家族ができました。

けれども、次の嵐はとっくにやってきていました。「平和とは戦争の準備期間のことである」と誰かが言っていましたね。

一九五四年、当時改進黨に所属していた中曽根康弘議員他数名により、原子力研究開発予算が国会に提出されています。このときの予算額が二億三五〇〇万円。これは原子炉で使用される物質ウラン二三五にあやかっていたんだそうです。なんだかなあ。一九五五年には原子力基本法が成立、翌一九五六年には日本原子力研究所が茨城県那珂郡東海村に設置され、これ以降、ここが日本の原子力研究の中心地となっていきました。

*照明変化。

そこは村の寄り合い。

小夜子、再びお面をつける。

小夜子 道も広くなるし橋もできる。
ハナコ 道路も舗装されたのになるんでしょう。
小夜子 信号機やら横断歩道やら歩道橋やらもできるぞ。

*二人、宙を見る。

二人 歩道橋・・・。

小夜子 人もたくさん来る。まず原発を作る人間、それからそこで働く人間。見に来る人間もおるかも。

ハナコ その人らみんなが食べ物を買う。着る物を買う。

小夜子 ほしたら店が増える。ビルができる。もちろんエレベーターのついたヤツや。

*二人、宙を見る。

二人 エレベーター・・・。

小夜子 ちゆうわけで、賛成でええな。

ハナコ 県の方でも話はいとるみたいやし。

小夜子 交付金というのがだいぶおりるらしい。

*二人、宙を見る。

二人 交付金・・・。

ハナコ ほやけど。

小夜子 なんや。

ハナコ なんで交付金がでるんでしょう。

小夜子 なんてって、ほれはおまえ、あれや、ご苦労さん、いうことやろ。

ハナコ ご苦労さん？

小夜子 ほや。お国のために、ようやってくれた、ご苦労さんて。

ハナコ いや、ほやなくて。ほやなくて。

小夜子 なんや、まだなんかあるんか。

ハナコ うまい話には裏がある、いうでしょう。ほんまにそれ、信じていいんでしょうか。

小夜子 なんやおまえ、疑い深いやつちなあ。

ハナコ それです。ええことづくめのように聞こえるけど、あんたの仕事がでкинようになつたりしませんか。この原発というのは、どうもえたいがしれん気がするんです。

小夜子 あのなあ、おまえなあ、

ハナコ ほやかてご苦労さんゆうのは、なんか大変なことがあるからやないですか。ゴミを拾ってご苦労さん、田んぼの草取りしてご苦労さん、牛の世話してご苦労さん。ほしたら、これからわたしらは何してご苦労さんなんですか？

小夜子 歩道橋。

ハナコ う。

小夜子 エレベーター。

ハナコ う。

小夜子 交付金。

ハナコ ううう。
小夜子 ちゅうわけで、うちとしては、お願いします、でええな。
ハナコ うううう。
小夜子 ええな。
ハナコ ほやけど！ほんまに、ほんまに危なくないんやろか、あれは！
小夜子 ええかげんにせえ！

*照明変化。
音楽。

ハナコ 一九七〇年福井県敦賀原子力発電所一号機稼働。同年、福井県美浜原子力発電所一号機稼働。一九七二年、福井県美浜原子力発電所二号機稼働。一九七四年、福井県高浜原子力発電所一号機稼働。一九七五年、福井県高浜原子力発電所二号機稼働。一九七六年、福井県美浜原子力発電所三号機稼働。一九七九年、福井県おおい原子力発電所一号機稼働。

小夜子 ちよつと「おおい」よね、福井県。

ハナコ 笑えんわ。

小夜子 じゃこんなのはどう。

ハナコ 「交通事故の年間の死者の数を数えて、自動車に乗るのをやめましょうとは言わない。やっぱり使った方が便利だからね。どうも原子力発電というリスクばかり言う傾向があるけれど、実際オイラたちはもつとリスクのある社会に生きている。変質者に刺される確率の方がよほど高いって。かつこ笑い」

小夜子 誰それ。

ハナコ こんなのもあるよ。

小夜子 「原子力発電を批判するような人たちはよく『地震が来て原子炉が壊れたらどうなるんだ』とか言うじゃないですか。ということは、逆に原子力発電所としては、地震が起きて大丈夫なように、他の施設以上に気を使っているはず。だから地震が起きたら、本当はここに逃げるのが一番安全だったりする。かつこ笑い」

ハナコ 誰それ。

小夜子 誰それ。

タモリとかサンマとかとならぶ超有名なお笑い芸人。まあ、専門家でもないただの芸人の言うことなんだから真に受ける方が馬鹿だと思うけどさ。でもさ。いくら芸人でもさ。大人なら言っちゃいけないことがあると思うんだよ。責任持たなきゃならないことがあると思うんだよ。間違っただってあるよ。それもわかるよ。でもさ、間違っていたら間違っていました、って反省するくらいのこととしてはほしいと思うんだよ。こどもだって謝るんだよ。でも北野タケシは大人なんだからさ。

ハナコ 今のは「つい口が滑った」？

小夜子 はい。つい口が滑りました。謝ります。かつこ笑い。

ハナコ こんなのもあるよ。

「まあ原子力発電所が来る。電源三法の金はもらうけど、そのほかに地域振興に対して裏金よこせ、協力金よこせ、というのがそれぞれの地域にある。お宮さんの修理のために原電、動燃、北陸電力に頼んで三億円できた。そんなわけで短大は建つわ、高校はできるわ、五〇億円で運動公園はできるわ。そりゃもう棚ぼた式の街作りができる。そのかわり一〇〇年たってカタワ

が生まれてくるやら、五〇年後に生まれた子供が全部カタワになるやら、それはわかりませんよ。わかりませんが、今の段階で原発をおやりになった方がよい」

ハナコ それ誰。

小夜子 敦賀市長。石川県の志賀町で原発建設の話が持ち上がったときに地元商工会に招かれてしゃべったらしいのね。直後にマスコミに漏れて世論の批判を浴びて次の選挙で、

ハナコ 落選した。

小夜子 それがこの話の一番怖いところさ。落選しなかった。

ハナコ えうそ。

小夜子 しなかったの。この人、再選して、そのあとも市長を続けたの。

ハナコ まじ？ 何してたんだよ、大人たちは。どんだけ根性なしなんだよ。

小夜子 そんなこと言うけど、あんただって知らなかったでしょ。そんなことがあったって知らなかったでしょ。

ハナコ それは、

小夜子 あたしらはすぐ忘れちゃうんだよ。戦争も地震も原発も。すぐ忘れる。あたしらはそういう生き物なんだ。

ハナコ 天災は忘れた頃にやってくる。

小夜子 二〇一一年三月一日。またそれはやってきた。

*地鳴り。

照明変化。暗い部屋。テレビを見ている小夜子。手にはビールの缶。

目が離せない。長めに。

ややあつて入ってくるハナコ。

ハナコ あかんよ、ビールなんか。

小夜子 ええんや。

ハナコ ええことないって。

小夜子 ええんや。

ハナコ もう。

*しばらく間。

ハナコ ひどいのお。

小夜子 ハナコ、わしら、一緒になって何年や。

ハナコ なんやの突然。

小夜子 何年や。

ハナコ ちようど五〇年やねえ。一九六一年・・・元福井農林高校の玉

村先生が生まれた年やから。

小夜子 誰やそれ。

ハナコ それでどうしたの。

小夜子 子供らも大きくなった。それぞれ家庭を持って子供がおって、まあああの暮らしをとる。

ハナコ そやね。

小夜子 わしも来年で八〇や。八〇年。わしの八〇年は何やったんやろう。

ハナコ どうしたの。

小夜子 わしは漁師やった。ほやけどやめた。やめて原発で働くようになった。そうやって生きてきた。

ハナコ ほや。

小夜子 ほやから子供らも大学まで行かせられたし、この村から出してやれたし、おかげであいつらも嫁さんもらえた。もう滅多に村には帰ってこんけど。

ハナコ お金があったら何でもできる。

小夜子 え。

ハナコ ほれで。ほれがどうしたの。

小夜子

とにかくわしはまちごてない。まちごたなんて、少しも思っていない。原発反対ゆうてプラカードもってデモなんぞやっとする奴らに何がわかる。都会でのうのうと電気つこて反対運動だけする、ほんな奴らに何がわかる。きれいごとばっかゆうてる奴らに何がわかる！

ハナコ あんた。

小夜子 ほれは今でも変わってない。今でも、ほの気持ちは変わってない。

みんな賛成しとるんやぞ。

村のもんも市長も県のエライさんもみんな賛成しとるんやぞ。

ほしたら賛成するのが当たり前やないか。

みんなのためなんやぞ。

みんなが幸せになるためなんやぞ。

ほれのどこがわるいんや。

ほやけどなんでやるな。

わしが、この全部なんもかんも、踏みつぶしたくなるんは、なんでなんやろな。

*ちよつと間。

ハナコ ほんなことない。

小夜子 え。

ハナコ ほんなことない。

小夜子 え。

ハナコ あたしらみんな、幸せになりたかったただけや。その何が悪いの。

*ハナコ、小夜子のビールを奪ってあおる。

小夜子 おいおい。

ハナコ それのなにがあかんの！

*うつむくハナコ。

小夜子、ノートを閉じる。

照明変化。

小夜子 あのさ。

ハナコ なに。

小夜子 やっぱ戻ってきてくれない？

ハナコ 無理。

小夜子 そこをなんとか。

ハナコ 無理。

小夜子 やっぱ勉強？
ハナコ うち、厳しいんだよ。
小夜子 でも。

ハナコ こないだの模試、すごく順位下げちゃって。そしたら、
「部活動なんかやってるからだ」
「将来俳優になるわけでもないのに、演劇なんかやってなんになる」

小夜子 おんなじだね。

ハナコ え？

小夜子 ごめん。あたし、あんたに謝らないと。実は、亜紀ちゃんは旅に出てないし、由美も空手の修行なんかしてないしよーちんも脱皮はしてない。あたし、あんたを騙してたー！

ハナコ 大丈夫、全然騙されてないから。

小夜子 さっきラインに連絡があって。みーんな、退部しちゃいましたー！

ハナコ えー？

小夜子 それでその理由がみんな一緒でさ。勉強するんだって。将来の生活のために。演劇なんかやってる場合じゃないんだって。

ハナコ あのね。

小夜子 というわけで、もう少しつきあってよ。

ハナコ あのね。

小夜子 もう少しだけ。ね。

* 蝉の声。

小夜子

「二〇二一年六月二三日、運転開始から四〇年を超えた関西電力美浜原子力発電所三号機が、原子炉を起動して再稼働した。一〇年前の福島第一原発の事故のあと四〇年を超えた原発が再稼働するのは全国で初となる。」

ハナコ うん。

小夜子 原発は法律で運転期間が原則四〇年に制限されてたんだ。でも国の審査に通れば例外的に最長六〇年まで運転延長が可能ってことになったの。

ハナコ うん。

小夜子 中古車でも修理すればまだ使えます、みたいな話。

ハナコ 詳しいじゃん。

小夜子 こんなの、スマホで調べたらすぐだよ。女子高生なめんな。

ハナコ そだね。

小夜子 車なら事故ですむけどさ。原発だよ。

ハナコ うん。

小夜子 あんなことあったのに。

ハナコ うん。

* 蝉の声。小夜子、ノートを開く。

小夜子 さてここでお話は一気に一〇万年後の未来に飛びます。

ハナコ へ？

小夜子 ハナコばあちゃんは一〇万年後の地球に輪廻転生していたのでした！

ハナコ はあ？

小夜子 ついに物語はSFに突入します！

*「風の谷のナウシカ」のオープニングの曲。

ハナコ ちよ、ちよっと。

小夜子 「ユーラシア大陸の西のはずれに発生した産業文明は数百年のうち全世界に広まり巨大産業社会を形成するに至った。大地の富をうばいとり大気をけがし、生命体をも意のままに造り変える巨大産業文明は一〇〇〇年後に絶頂期に達しやがて急激な衰退をむかえることになった。「火の七日間」と呼ばれる戦争によって都市群は有毒物質をまき散らして崩壊し、複雑高度化した技術体系は失われ地表のほとんどは不毛の地と化したのである。その後産業文明は再建されることなく永いたそがれの時代を人類は生きることになった。」

*小夜子、石碑を持ってきて、村人になる。

小夜子 「風の谷のナウシカ」の「ミトじい」になって（おお、姫様。ここにおられましたか。

ハナコ 何この設定。

小夜子 姫様、あまり自由に歩かれては困ります。近頃は何かと物騒ですからな。

ハナコ それであたしは何をしたらいいわけ。いっとくけど王蟲と話もできないしメーヴェに乗って空を飛んだりもできないんだけど。

小夜子 誰が巨大ダンゴムシや一人乗り軽量飛行装置の話をしてるんですか。そんなことより謎の疫病の話です。

ハナコ 疫病？

小夜子 我が国に蔓延し、次々に命を奪っている、あの恐ろしい病気のことです。

ハナコ 病気？

小夜子 というわけで、冒険の旅へと出発です！

ハナコ いやいやいやいや。

小夜子 「もののけ姫」の「ヒイ様」になって（誰にも定めは変えられない。だがただ待つか自ら赴くかは決められる。その地に赴き、曇りのない眼で物事を見定めるなら、あるいはその呪いを絶つ道が見つかるかもしれん。

ハナコ だからパクるのはやめろって、

小夜子 「天空の城ラピュタ」の「パズー」になって（行くこうっ、おばさん！ 父さんの行った道だ！ 父さんは、帰ってきたよ！！

ハナコ やかましい！ 誰がおばさんじゃ！

小夜子 「ルパン三世・カリオストロの城」の「クラリス姫」になって（私も連れてって。泥棒はまだ出来ないけど、きっと覚えます！

ハナコ うるせえ、犯罪予備軍かー！

小夜子 姫様、到着いたしましたぞ。

ハナコ 展開はやっ。

*石碑には「ここ、あぶない」とでっかく書いてある。

ハナコ ここ、あぶない。

小夜子 おお、さすが姫様じゃ。誰にも解読できなかった難解な古代文字を。

ハナコ いやでもこれひらがなだから。

小夜子 一〇万年も経てばひらがななんか使っている人間は一人もいなくなっています。たとえばエジプトのピラミッドに刻まれている絵文字はそのすべてが解読されているわけではありませんが、せいぜい数千年です。古文の時間に習う源氏物語、アレを原文で読める人が日本に何人いるでしょう。アレなんかほんの一〇〇〇年です。一〇万年未来になったら、現在使用されている言語はすべて解読不能になっていると予測されています。

ハナコ あんた、誰に説明してんの。

小夜子 それでは姫様、これは、ここにはなんと書いてあるのでしょうか。

*石碑の後ろ。そこにはもう少し細かい文字が。

ハナコ

「ここに原子力発電所の放射性廃棄物を埋める。未来の君たちにこのような負の遺産を残さなくてはならないことを本当に申し訳なく思う。我々の科学技術では放射性廃棄物を無害化することはついにできなかった。以下の期間、慎重に管理し続けることを願う。安全レベルの目安、

放射性セシウム・・・三〇〇年。

プルトニウム・・・二四万年。

ヨウ素129・・・一億六〇〇〇万年。

*沈黙。

ハナコ ねえ、最近、この辺で地震があつたんじゃない。

小夜子 おお、ありました。この国は地震の多い国でして、家も城も崩れ、あちこちで地割れも・・・姫様、なぜそれをご存じなので？

ハナコ たぶん地下の保存容器が壊れたんだよ。それで中の放射性廃棄物がもれだして、

*ハナコ、めまいがして座り込む。小夜子も続くように座り込む。

小夜子 姫様、それでどうしたら、この疫病を、鎮めることができるのでしょうか。

ハナコ 方法はないんだ。

小夜子 そんな、

ハナコ 放射性物質はできてしまったらもうどうしようもないんだ。ただ、埋めて隠して忘れるしかない。でも忘れても、なくなるわけじゃない。

小夜子 ひ、姫様。か、体が。

ハナコ ごめん、無理なんだ、あたしにはどうしようも、

小夜子 ああ、一度だけでも彼氏がほしかった！

待ち合わせして彼氏が遅れてきて自分は二時間前から待ってたんだけどそんなこと全然なかったみたいな顔して「ううん、今来たところ」って言ってみたかった！

ハナコ あ、あのね、

小夜子 あと校舎の屋上に続く階段の途中で彼氏があたしを壁際に立たせて両手で壁をドンってやって「俺とつきあえよ」って言われてみ

たかった！
ハナコ あんた、とつとと死んだら！
小夜子 どうか、未来の私たちのことを忘れないでください。こうやって失われていく未来のことを。こうやって、死んでいく未来のことを。どうか過去のみなさん、未来の私たちのことを忘れないでください……。

*音楽。

照明変化。
星が見え始める。

小夜子 あー、駄目だー！

*照明変化。
音楽止まる。

ハナコ こんな結末じゃ駄目だー！
小夜子 こんな劇じゃ駄目だー！
ハナコ 未来のことなんか誰も気にしてない！
小夜子 心に響かないー！
ハナコ ねえ、そうですね。そんな未来のこと考えて生活してないですよね。電気もガソリンも使いたい放題使ってますよね。プラスチック製品もばんばん使ってますよね。ペットボトルのジュースとか飲みますよね。そこでその辺にポイ捨てしてますよね。気にしてないですよね。

小夜子 この演劇祭だって、原発からのお金がナンボか流れ込んでるんですよ。あたしたち原発のおかげで劇がやれてるんです。これって馬鹿みたいですよ。

ハナコ 照明だの音響だの冷房だの、そのためにどんだけの電気を使ってるんだって話だよ。それでどんだけCO2が増えてんだって話だよ。

小夜子 演劇部ってたくさん紙使いますよね。脚本印刷したりして紙使いますよね。その紙はどうやって作ってるんでしょう。あたしらどんだけの森林を食いつぶしたんでしょう。

ハナコ あたしらは何も考えてない。考えたことない。明日のハナコたちがどんだけ苦労するか、そんなこと考えたことない。ああ。こんな劇作ってたって何にもならない。何も変わらない！ 誰も未来のことなんか気にしない！ みんな今で精一杯自分のことで精一杯お互いを傷つけるので精一杯！

小夜子 駄目だー！
ハナコ 駄目だー！
小夜子 わあああああああ！
ハナコ うわあああああ！

*二人、走り回り、叫び、装置(段ボール箱)を破壊する。
大暴れ。その勢いで装置の段ボールを二人ともかぶる。
疲れ果てて座り込む。

音楽。

二人、段ボール箱をかぶったまま、

ハナコ あたし、演劇部やめる。マジで。

小夜子 そう。

ハナコ もう劇はやらない。

小夜子 そう。

ハナコ あたしは勉強する。勉強して、勉強して、偉くなって、それで

この世界を変えてみせる。

小夜子 あたしは、演劇部に残る。マジで。

ハナコ そう。

小夜子 あたしは劇を作る。

ハナコ そう。

小夜子 あたしは劇を作る。作って、作って、作りまくって、そこで

の世界を変えてみせる。

ハナコ そんなの無理に決まってるだろ、ばーか。

小夜子 あんたこそ、無理に決まってるだろ、ばーか。

ハナコ 勝負は、

小夜子 一〇万年後だな。

ハナコ 小夜子 おう。

*ハナコ、歩き出す。

小夜子、ノートを広げて書き出す。

緞帳降りる。

音楽終わる。

おしまい。

*参考図書

小出裕章「一〇〇年後の人々へ」集英社新書

武田邦彦「全国原発危険地帯マップ」日本文芸社

小出裕章他「原発再稼働の深い闇」宝島新書

佐高信「原発文化人五〇人斬り」朝日新聞社

参考映画

「風の谷のナウシカ」「もののけ姫」「天空の城ラピュタ」

「ルパン三世 カリオストロの城」

聞き取り

玉村幸子